

| | | |
|----------|-----------|--|
| 提出 順番 | No. 11 | 令和 8 年 2 月 27 日 午前・ <u>午後</u> 3 時 6 分受領 |
|----------|-----------|--|

令和 8 年 2 月 27 日

幕別町議会議長 寺林 俊幸 様

幕別町議会議員 荒 貴賀 

一般質問通告書

次のとおり通告します。

| 質 問 事 項 | 質 問 の 要 旨 |
|---|--|
| <p>1 忙しすぎる学校を 生み出した学習指導要領、現場の創意工夫が活かされる学校づくりを</p> | <p>学習指導要領は、全国の学校で一定水準の教育を提供するための基準であり、約10年ごとに改訂されています。直近では2020年度から小学校で、2021年度から中学校で、2022年度から高校で順次実施されています。</p> <p>「ゆとり教育の見直し」と、新たな学習指導要領により学習の極端な詰め込みが進められ「カリキュラム・オーバーロード（過積載）だ」と指摘している方もいます。2020年度から始まった学習指導要領では、小学校4学年以上で毎日6時間授業です。一方、休み時間が削られ、給食もゆっくり食べられません。遠足など楽しい行事も削られています。学校は子どもにとって勉強とともに、遊びと生活の場です。忙しすぎる学校は改めなければなりません。学校で子どもにあったカリキュラムに変更できるよう、学習指導要領の弾力的な運用が急がれます。</p> <p>特に「学力向上」のために、テストの繰り返しや夏休みを減らしてまで授業時間を増やすことについては是正されるべきです。学習内容の精選や授業時数の考えなど、現場の創意工夫が活かされる内容になることこそ重要と考えますことから、以下の点について伺います。</p> <p>(1) 学習指導要領によって教育カリキュラムが詰め込まれている現状を教育委員会はどのように認識しているのか。また、次期改訂に向けて改善を求める考えは。</p> <p>(2) 全国学力テスト（小学校第6学年・中学校第3学年の全</p> |

| | |
|---------------------------------|---|
| <p>2 児童生徒がよく見える、30人以下学級の実現を</p> | <p>員対象、2013年に復活)は、今までなかった都道府県同士の平均点競争を引き起こし、市町村と学校を点数競争に巻き込みました。学校での教育がテストの平均点に一喜一憂するようになり、地方独自の学力テストも広がりました。ランク付けの教育ではなく、一人ひとりの学ぶ喜びが大切にされ、豊かな人格形成に結び付く教育こそ大切にされるべきでありますが、町の学力テストの位置付けは。</p> <p>(3) 現場の創意工夫が学びを深める一助になると考えますが、町の取り組み状況は。</p> <p>国は、2021年以降、小学校の学級編制の標準を段階的に1学級40人から35人に引き下げてきました。次年度予算案には中学校で1学級35人のための予算が計上されています。</p> <p>北海道では、独自の施策として、中学校第1学年については、1学級35人の学級編制ができる教員加配の措置を実施しています。</p> <p>学校は子どもに丁寧に向き合う時間や、よくわかる授業のための準備時間を増やしたいと考えています。そのためには、少人数学級の拡充などが必要です。少人数学級は、国に先駆けた学年の拡大や、1学級30人など更なる少人数化を進めている自治体もあります。</p> <p>幕別町の少人数学級の考えについて伺います。</p> |
|---------------------------------|---|

(注) 質問の要旨は、具体的に記載すること。